

【5】 都城地区小学校体育連盟 （学校数 42 校、児童数 13,257人）

I 年間事業について

期 日	曜	会 名 等	主 な 内 容	会 場
5月10日	月	教科主任会 (常任理事のみ)	役員改選、研究推進	西小学校
5月18日	火	第1回常任理事会	研究推進、学校体育研究発表 大会指導案検討、水泳記録会 検討	西小学校
5月25日	火	第2回常任理事会	研究推進、学校体育研究発表 大会指導案検討、水泳記録会 検討	西小学校
6月25日	金	小中高合同研修会		都城西高等学校
7月中		各学校における水泳記録会		各学校
7月28日	水	第3回常任理事会	学校体育研究発表大会指導案 検討、陸上記録会検討	早水公園体育文化センター
8月 3日	火	第1回理事会	学校体育研究発表大会指導案 検討、陸上記録会検討	早水公園体育文化センター
9月～11月		各学校における陸上記録会		各学校
10月12日	火	第2回理事会	学校体育研究発表大会指導案 検討、当日の役割確認	早水公園体育文化センター
10月28日	木	第62回学校体育研究発表大会 都城・三股大会 前日準備		高崎小学校 明和小学校
10月29日	金	第62回学校体育研究発表大会 都城・三股大会		高崎小学校 授業者：末原 義国 教諭 明和小学校： 授業者：宮田 翔馬 教諭
2月15日	火	第4回常任理事会	年間反省、次年度の方向性	早水公園体育文化センター
3月 1日	火	第3回理事会	年間反省、次年度の方向性	早水公園体育文化センター

II 事業部のあゆみ

1 各学校による水泳記録会(7月中)

(1) 対 象 小学5・6年生

(2) 実施種目 25m(自由形・平泳ぎ) 50m(自由形・平泳ぎ)

* 5年生は、50mの種目は行わなくてもよいこととする。

2 各学校による陸上記録会(9～11月中)

(1) 対 象 小学6年生

(2) 実施種目 50mH 長距離走(男子1000m 女子800m)ソフトボール投げ

Ⅲ 研究部のあゆみ

Ⅰ 研究主題及び副題

進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方
～動きの高まりを意識した体づくり運動の学習を通して～

2 主題設定の理由

小学校学習指導要領改訂において体育科では、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育むこと」の大切さが示されている。運動やスポーツは特性に応じた楽しさや喜びがあることや体力の向上につながっていることに注目させ、自己の能力や適性等に応じて、運動との多様なかわり方について考える必要がある。そのため、運動の楽しさや健康の意義等に気づき、課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組み、課題を修正したり新たな課題を設定したりするなどの主体的な学びを促すための授業改善が求められている。

また、本年度は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、将来を担う子どもたちの体育やスポーツに対する関心や期待が高まってきている。一方で、コロナ禍における運動不足や運動離れにより、基礎体力の低下等、大きな課題も見られる。

本研究の領域である「体づくり運動」は、小・中・高と一貫して位置付けられており、特に、小学校高学年においては、体力向上を目的としているその役割が大きいことから、指導内容の充実が期待されている。

さらに、本地区の教員に対してアンケートを実施したところ、「体づくり運動」の指導の在り方について関心や不安をもっているという意見が多く出された。このような実態を踏まえ、「体づくり運動」の学習を中心に、進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方について研究を進めてきた。

研究1・2年目は新学習指導要領の改訂のポイントに沿って指導方法の見直し及び研究の方向性の検討を行った。研究3年目は、コロナ禍における研究や体育科学習の在り方について検討しながら、「基本的な単元構成」や「基になる動きの系統表」等の作成を通して、動きの高まりを意識した体づくり運動の学習の在り方について研究した。オリエンテーションや課題提示を工夫することで、児童が見通しをもって、主体的に活動する姿が見られた。しかし、「基になる動き」の取り上げ方(単元の位置付け等)や動きの高まりを実感させるための手立てなど、課題も残っている。そこで、4年目となる本年度は、3 年間の研究の成果・課題を整理するとともに、新たに ICT の活用等も視野に入れ、授業実践に取り組んでいる。

以上のことから、体づくり運動を通して、児童が課題解決の方法を主体的に考え、自らの伸びを実感することで、成就感や達成感を味わい、運動の楽しさや魅力を感じることができると考え、本主題を設定した。

3 研究の全体構想

体育科の目標

生涯にわたって運動に親しむ児童の育成
～豊かなスポーツライフの実現に向けて～

都城市・三股町小体連が目指す児童像

進んで運動に親しみ、運動の課題や練習方法を自ら考えたり、工夫したりしながら運動の技能を高め、楽しく運動する児童

研究目標

体づくり運動における単元構成の工夫や指導方法の工夫・改善、運動の日常化を図るための環境整備を通して、運動の楽しさや自らの伸びを実感できる児童を育成するための体育学習の在り方について究明する。

研究主題

進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方
～動きの高まりを意識した体づくり運動の学習を通して～

研究仮説

体づくり運動を通して、運動することの楽しさや心地よさを味わい、自らの伸びを実感できるよう学習過程を工夫し、個々に応じた課題解決の場を設定すれば、児童は運動に進んで取り組み、楽しさを味わうことができるであろう。

研究内容

児童が進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育学習の在り方

(1)進んで運動に親しむための工夫

ア 単元構成の工夫

- オリエンテーションや「基になる動き」の位置付け

イ 動きの視覚化のための手立て

- 板書計画や学習カードの工夫

(2)楽しさを味わうための工夫

ア 動きの高まりを実感できる手立て

- 「基となる動き」の系統表やチェック表の作成・活用

イ 運動条件の工夫

- 運動条件の工夫カードの作成・活用

評価

改善

4 研究の実際

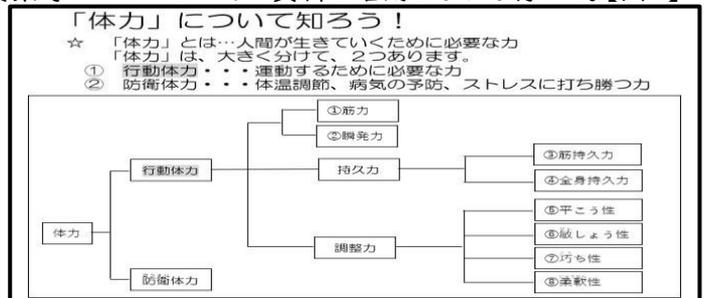
3か年の研究で作成した資料等を精選・整理するとともに、ICT の活用を視野に入れ、「児童が進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育学習の在り方」の具現化を図る。

(1) 進んで運動に親しむための工夫

ア 主体的な姿を実現するための工夫

児童が見通しをもって活動できるように、オリエンテーションの内容や「基になる動き」の位置付けを含めた単元構成について検討した。特に、オリエンテーションは、体の動きを高める必要性を認識し、目的をもって学習を進めることができるよう、体力の要素等についてまとめた資料を活用しながら行った。【図1】

また、単元の構成を「基になる動き」→「条件を変化させた動き」→「基になる動き」という学習の流れにすることで、自らの伸びを実感し、意欲的に運動に親しむことができるよう計画した。運動によっては、1単位時間の中でも、「基になる動き」に戻すことで、スモールステップで変化を捉えることができた。【図2】



【図1:オリエンテーション資料】

単元の学習計画及び評価計画(第○学年)

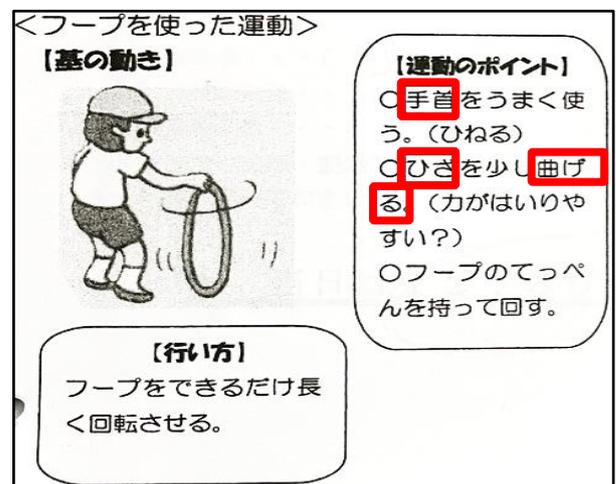
時間	1	2	3	4	…(本時)	X
指導内容	知・技 ①体の動きを高めるための運動の行い方 ②●●を使用した動きの高め方 ③人や物の変化に対応した動きの高め方 など					
	思・判・表 ①自己や仲間の課題発見 ②課題に応じた取り組み方の工夫 ③他者に伝える力 など					
	態 ①積極的な取り組み ②仲間との助け合い ③準備や片付け ④仲間との認め合い ⑤場や用具の安全 など					
学習活動	0	オリエンテーション	●●運動(遊び)			課題に合った運動
	10	1 準備運動を行う。 2 オリエンテーションを行う。 ○ 運動について ○ 学習の進め方	1 学習の約束を確認する。…「わくわく体育6つのOK」 2 準備運動を行う。…使う部位を中心に準備体操、場・用具の準備 3 学習の進め方を確認し、見通しをもつ。…今日のめあて、今日の流れ			
	20	3 自分の体力を調べる。 ○	4 基になる動きを運動のポイントに沿って正しく行う。 ○ ●●運動に取り組む。 5 条件を変化させ、工夫して運動を行い、動きを高める。 ○ ●●運動を工夫し、行う。			4 ポイントを意識しながら、動きを高める運動に取り組む。 ○ 自分の課題に合った運動
	30	4 試しの運動を行う。 ○	6 基になる動きを運動のポイントに沿って正しく行う。			5 工夫した動きとそのポイントを伝え合う。
	45	5 本時の学習を振り返る。 ○ 学習カード記入 6 片付けを行う。	7 学習(本時・単元)を振り返り、運動のポイントや課題を整理する。 ○ 学習カード記入 8 片付けを行う。			
評価の重点	知・技 ①観察 ②観察・カード など					
主な準備物	※指導内容と評価の重点化					

【図2:単元計画】

イ 動きの視覚化のための手立て

運動のポイントが「分かる楽しさ」を味わうために板書や学習カードを工夫する。動きを視覚化することで、運動の行い方やポイントが分かり、より主体的に活動することができる。「何が」「どのようになっている」からできたのかを分析できるように、体や用具の部位に着目するようにした。板書や学習カードには「足・膝…曲げる」「手首…回す」など、動きのポイントを細かく示すことができるようにする。【図3】

また、今年度からは、タブレットPCを用いた学習カードを作成し、効率的に運動の記録や情報共有ができるようにしている。



【図3:板書内容の一部】

(2) 楽しさを味わうための工夫

ア 動きの高まりを実感できる手立て

児童が「伸びる楽しさ」を実感できるように、それぞれの学年でどのような動きを身に付けなければならないのかを明確にする必要がある。そこで、体づくり運動における「基になる動き」の系統表を整理した。系統性を図った単元構成により、単元全体や本時の指導事項を明確にし、指導することができる。

また、児童用の「基になる動き」のチェック表も作成した。【図4】児童自身が、「基となる動き」を意識するとともに、自分の動きの高まりを実感することにもつながると考えた。さらに、体育科の時間以外にも自由に活用し、日常的に体づくり運動に取り組めるよう促していく。

「基の動き」チェック表 (高学年)	
5年生・6年生	
巧みな動き	できるようになった動きを確認しよう
	1 短なわや長なわを使って、跳び方を変えたり、跳ぶリズムを変えたりしながら、跳ぶこと
	2 短なわや長なわを使って、人数を変えて一緒に跳んだり、なわとびをしながらドリブルをついたりすること
	3 投げ上げたボールを姿勢を変えて捕ること
	<p>動きができるようになったら、自分で○や◎をかきましよう。</p> <p>◎…よくできた ○…できた △…もう少しでできる</p> <p>1の動き () 2の動き ()</p>

【図4:児童用の「基の動き」チェック表】

イ 運動条件の工夫

用具や人数などの条件を変えることで、

運動の楽しさや面白さも変わってくる。

児童の実態に合わせ、条件の変化を選択させたり、視点に沿って考えさせたりした。

また、運動条件を変えて、様々な動きができるように、新学習指導要領に記載されている動きを基に条件を例示した資料(運動条件の工夫カード)を作成した。【図5】

授業の目的に応じて、教師側・児童側両方が活用できるようにしたい。

☆跳ぶ、跳ねるなどの動きで構成される運動遊び

基になる動き
線の上をリズムに合わせて両足で跳びながら進む。

片足跳び



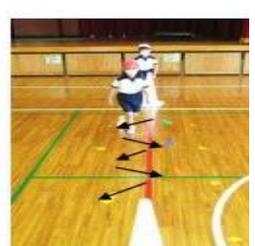
★片方の足だけで跳ぶ。

開脚跳び



★開脚の状態で跳ぶ。

動作の方向



★真ん中のラインをふまないように跳ぶ。

【図5:運動条件の変化の例】

5 成果と課題

(1) 成果

- 日常生活とつないで考えさせるなど、オリエンテーションを工夫したり、児童から出た言葉をポイントとして視覚的に示したりすることで、関心や見通しをもって活動し、主体的に運動に親しむ児童の姿を見取ることができた。
- 「基になる動き」に特化して授業を構成することで、運動条件を工夫して行う視点を身に付けさせるとともに、動きの高まりを感じられる学習となった。

(2) 課題

- 動きの高まりの評価方法として、動きの高まりについては、児童の感覚的なものに頼るところが多かった。ICTを活用したデータの記録等、様々な方法で動きの高まりを見取る必要がある。

6 参考文献・資料

- 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 (平成29年7月) 文部科学省
- 小学校体育(運動領域)まるわかりハンドブック (平成23年7月) 文部科学省